




堂津岳(1926.6m)、薬師岳  
(1801.7m)、松尾山(1677.8m)、柳原  
山(1788m) (積雪期ピークハント／縦  
走 / 妙高・戸隠・雨飾)

by  
gekiyabu 

日程 :

2012年05月19日(日帰り)

メンバー :

gekiyabu

天候 :

快晴

地図 :



WEB SERVICES BY YAHOO! JAPAN

標高グラフ :

コースタイム :

5:32 除雪終点--6:05 杉野沢橋--6:23 真川を離れる--7:05 尾根に乗る--7:30 1640m  
肩--8:16 薬師岳(休憩) 8:38--9:18 乙見山峠--10:01 松尾山(休憩) 10:26--11:53 柳  
原山(休憩) 12:25--13:13 堂津岳--13:22 1910m肩--13:26 堂津岳(休憩)(休憩)  
14:08--14:48 柳原山--15:21 1752m肩--15:33 1340m平坦地--15:45 林道に乗る--  
15:57 妙高小谷線分岐(休憩) 16:12--17:28 杉野沢橋--18:05 除雪終点

コース状況／その他周辺情報 :

- ・ 起点は笹ヶ峰奥の黒沢橋(除雪終点)

- ・ 林道脇に駐車スペースあり。登山ポストなし
- ・ 本コースは林道以外は道無しで残雪期専用
- ・ 最初だけ雪が消えた場所があるが、杉野沢橋まで林道の9割は雪に埋もれる
- ・ 真川右岸から1640m肩までの尾根は痩せた岩稜で転落注意
- ・ 薬師岳は雪田が最高峰。周囲には熊の足跡あり
- ・ 乙見山峠～薬師岳間は断続的に踏跡あり
- ・ 乙見山峠はトンネル西側出口に向かって明瞭な道あり
- ・ 地形図では乙見山峠～堂津岳まで登山道があるように書かれているが廃道。特に松尾山～堂津岳は完全に道無し
- ・ 松尾山は三角点が出ていた。展望良好
- ・ 松尾山から堂津岳間は、柳原岳直下を除いて雪が使えた
- ・ 柳原岳は展望良好
- ・ 柳原岳～堂津岳間はなだらかな雪稜が続き気持ちいい尾根
- ・ 堂津岳は平坦な山頂。三角点が出ていた。高い木はなく大展望
- ・ 帰路は柳原岳北方の1710m峰から北東尾根に入り、1752m肩から少し東に下って北斜面を下りた。1752m肩から東の尾根上で藪が出ていたが他は雪が使えた
- ・ ニグロ川沿いの林道の大半は雪に埋もれる

### 📷 写真：



笹ヶ峰駐車場先の黒沢橋付近に駐車



黒沢橋から100mくらいまでしか車は入れない



路肩が崩壊した箇所あり



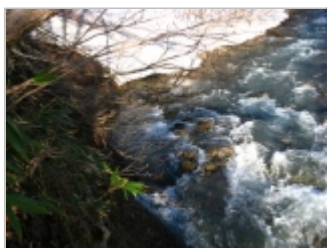
杉野沢橋



堰堤を超える



堰堤の先は広い川



流れが切り立った右岸に接した場所。雪解けの増水で靴水没確実



藪の小尾根を越えて次の雪溪へ

残雪を伝って高巻きする



雪が長く続きそうで上を目指す

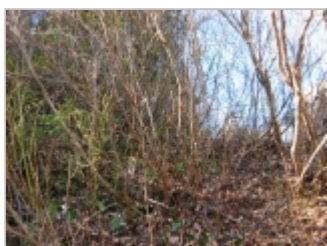
水平移動に移行



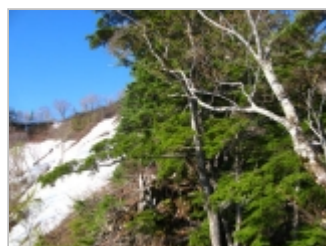
雪溪上端。右側の小尾根に取り付く



雪溪上端から見た焼山火打



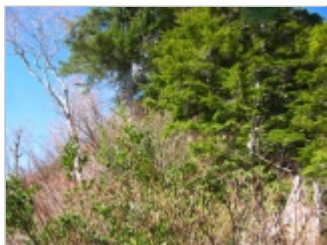
取り付いた小尾根。灌木はさほど濃くない



標高1550mくらいで尾根に乗る



予想外の痩せた岩稜が続きビビリまくるが突破できない難所はなかった



1640m肩で赤尾岳からの尾根に乗る



1640m肩付近から見た南側の展望



1640m鞍部付近は尾根が広がり残雪



焼山、火打山の展望



まだ雪は連続しないが薬師岳山頂が見えた



積雪期用の目印



南斜面に残雪現れる



ここだけ僅かに雪が途切れて藪を横断



人間のトレースではなく熊のトレース



熊と私の足跡が並走



薬師岳山頂



薬師岳から見た東半分の展望



薬師岳から見た南側の展望



薬師岳から見た北アルプス



薬師岳山頂付近の熊の足跡



南側から見た薬師岳山頂



堂津岳はまだ遠い



また熊の足跡出現



薬師岳を振り返る



1700m峰のピーク直下の下りで20mほど藪に突入



1690m峰から見た薬師岳



1680m峰への登り



1680m峰を巻いて1690m峰へ



乙見山峠へ下り始める



雪が消えて尾根上の踏跡を歩く



乙見山峠。小さなお地蔵様がある



トンネル西側に下る道



新潟県境全縦走か。すげ〜



松尾山方向を踏跡は続く



1654m峰から見た薬師岳



1654m峰から見た松尾山



1590m鞍部付近から見た松尾山方向



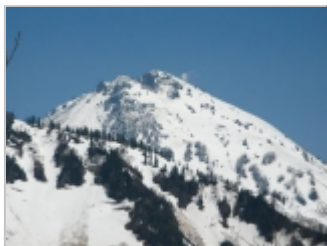
1590m鞍部付近から見た1654m峰



もうすぐ松尾山



松尾山山頂。三角点が出ていた



松尾山から見た焼山



松尾山から見た堂津岳



松尾山から見た後立山北部



松尾山を出発、南下する



1640m肩までの水平区間は藪が出ていた



1640m肩から見た1664m峰



1664m峰への登り



1664m峰から見た堂津岳方向



1664m峰から見た松尾山、薬師岳



1664m峰直下のみ藪



でも短距離で雪棚復活



1570m鞍部へ下る。途中でプチ滑落して右肘強打



1660m峰への登り



1664m峰を振り返る



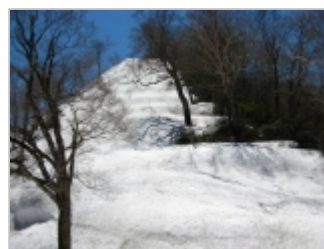
1680m峰への登り



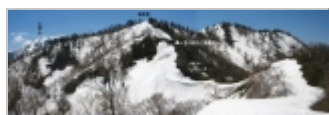
1710m峰。雪が繋がって  
いそう



1710m峰への登り



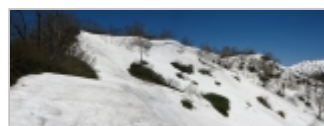
雪庇が階段状にうねる



1710m峰から見た柳原岳



1680m鞍部



1680m鞍部から1710m峰  
を振り返る



柳原岳へ登る。雪が割れた  
箇所は藪尾根を登った



藪は笹がメイン。尾根直上  
は灌木混じり



残雪帯に戻る



柳原岳北峰



柳原岳北峰から見た北方向



柳原岳北峰から見た柳原岳  
南峰(地形図の山頂)



柳原岳山頂。最高点は藪が  
出ていた



柳原岳から見た地藏山と乙  
妻山



堂津岳へと向かう。この先  
はシラビソ樹林に変わる



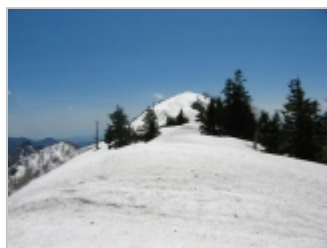
柳原岳を振り返る



1832m峰付近の二重山稜



二重山稜の真ん中の谷



1850m峰付近から堂津岳  
方向。山頂はまだ見えない



1920m峰へ



1920m峰中腹から振り返  
る



1920m峰から見た堂津岳  
山頂



堂津岳山頂



堂津岳三角点



堂津岳から見た東～南の展  
望



堂津岳から見た北アルプス



堂津岳から見た北方向の展  
望



堂津岳より下山開始



1920m峰から見た北方向  
の展望



1850m峰



柳原岳北峰から見た1680  
m峰



1820m肩付近から見た柳  
原岳



柳原岳北峰から見た1680  
m峰



## 二重山稜



柳原岳を下る。雪が割れた個所でまた藪に潜る



1710m峰は東を巻いてしまふ



巻き終わって1660m鞍部に出る



1680m峰



1680m峰から1572m肩へ伸びる尾根。まだ雪が付いている



柳原岳を振り返る



平坦な尾根を進む



1572m肩。尾根上の残雪はここまで



1572m肩より東に尾根を下ると藪が出ている



眼下には二グロ川左岸の平坦地



雪が付いた北斜面を下る。結構急斜面



また熊の足跡



ニグロ川左岸平坦地を北東に進む。途中で林道を横切ったはずだが気付かず



河岸段丘直上に林道が移ったところで林道発見



スノーモービル跡



乙見山峠のトンネルに抜ける林道分岐



赤尾岳南側は林道の雪が無く歩きやすい



杉野沢橋でスノーモービル2台に追い越された



車に到着

### 感想／記録 : (by gekiyabu)

妙高火打焼山エリアの南西部、長野／新潟県境には1600mを越える山がいくつかあり、明らかに道が無い山もある。地形図では乙見山峠から堂津岳まで破線が書かれているが、こんな夏道があるとは聞いたことがない。通常、堂津岳は残雪期に鬼無里側の奥裾花自然園から登るのが一般的であり、登山道があるならそれを使うのが普通のはずで、この破線は嘘だろう。峠から一番近い松尾山くらいまでは道があるかもしれないが、その奥は怪しい。下山後ネットで検索したら、案の定、松尾山までは踏跡程度はあって無雪期に登った記録がヒットしたが、柳原岳や堂津岳まで歩いた記録は見あたらなかった。ちなみに柳原岳の記録は1件も発見できなかった。

残雪期も終わりに近づき、雪があるのは標高が高いところか豪雪地帯のみ。豪雪地帯でもこの時期に雪があるのは火打周辺のみで、天狗原山から南側の県境尾根を雪を利用して歩けるのも最終盤だろう。部分的に藪が出ている可能性は大きい挑戦することにした。目指す山は薬師岳、松尾山、柳原岳で、時間があれば堂津岳も入れよう。赤尾岳は夏道があるのでパスするかも。雪の状態によっては登るか。

笹ヶ峰から奥の林道はどこまで入れるかと思ったら、例年の大型連休と同じく最初に渡る黒沢橋までであった。その先はそれなりに雪が解けているが、100mほど進んだところで帯状に雪が残って車では無理だった。橋までバックで戻り出発準備。もうワカンの出番は無いのでピッケルに12本爪アイゼンとする。天気予報は快晴で防寒装備も少なめだ。所要時間はかなり長いと予想され、飯と水は多めに持った。

最初こそ林道は雪解け部分が多いが500mも進むと一面の残雪。ただ、雪が締まってほとんど沈まないのが楽だ。気温は0℃、水たまりに薄く氷が張っていた。杉野沢橋を渡って真川右岸を北上、薬師岳から東に延びる尾根のどこかに取り付くことを考えたためだ。北斜面なのでそれなりに高いところまで雪が付いていると思われる。赤尾岳東斜面はけっこう雪が消えていて、尾根に乗ると藪漕ぎ確実そうなので今回はパスとした。

堰堤横を乗り越えて平坦な河原を進むと切り立った岸に流れが接した場所が登場。数年前の6月に焼山に登ったときにここを通過しているが、今回は雪解け水が多くて靴が水没確実な水量だ。ここは残雪を利用して高巻きしてパスすることにした。すぐに河原に降りられるかと思ったら切り立った斜面が続き、下れる場所を見つけた頃にはそれなりに高度が上がっていた。せっかく稼いだ標高を落とすのももったいないし、斜面上部を見ると残雪が続いているのでこのまま上を目指すことにした。薬師岳東尾根のどの辺に出るのかは到着してのお楽しみだ。上部の傾斜が急なのでアイゼン装着。

締まった雪でアイゼンが気持ちよく決まりぐんぐん高度を上げる。背後には真っ白な焼山。まだまだスキーを楽しめそうな斜面が広がる。できるだけ薬師山頂に接近すべく雪溪の右側(西)を登り、小尾根を超えた先にも雪溪が続いている場合はそちらに乗り換える。広い雪溪を上がっていくと終点が見えてきた。イヤらしいことにこの辺は明るいブナ林なのに上部の尾根は緑色の針葉樹林が続いている。このような植生パターンでは針葉樹は岩の存在を示唆する。その証拠に尾根上部は数mの絶壁状態で直接取り付くのは不可能で、右手の藪が出た小尾根に取り付いて東尾根に突き上げることにした。小尾根はブナ、灌木が生えているので岩はないようだ。取り付いてみると灌木はさほど濃くなく、尾根に乗ると歩きやすくなった。東尾根直下で傾斜が急であるが、藪があるので問題なく登り切った。

東尾根に出ると植生から推測したとおり岩混じりの痩せ尾根の連続だった。尾根の両側は10m以上切れ落ちて迂回不可能。今回は岩登りはないだろうとお助けロープは持ってこなかったのが、私の技量では突破できない危険箇所が出現したら、これまで登ってきたルートに雪があるところまで標高を落とし、巻けそうな場所を探す必要がある。ビクビクしながら進んでいくが、ラッキーにも大きな岩は登場せず、岩にまとわりついた針葉樹をホールドやスタンスにも利用して次々とクリアしていく。1カ所だけ登れそうにないのっぺりした岩が出てきたが、これは南側を迂回するスペースがあった。他の場所もドキドキする場面は多かったが決定的に危険な場所に出会うことはなかった。獣道

だろうか、それなりに筋も付いていたが目印は見られなかった。

赤尾岳からの尾根に合流すると危険地帯は終了。立木に目印が見られるようになる。もうアイゼンは不要だろうとザックに収納。最初はまだ雪は無く尾根上の藪を歩いたが、1650m峰を越えて下りにかかるると待望の残雪の尾根に。でもまだ雪は断続的で、尾根南側の雪棚が落ちてしまった場所は尾根上の笹+灌木藪を歩いた。この付近の藪はまだ我慢の範囲内で無雪期でも歩けるレベルだった。

再び雪が現れると熊の足跡登場。真新しく明らかに今日付いたものだ。ただ、私とは逆方向(下り)に進んでいるので遭遇の危険性はない。熊は素手なので雪は冷たくてできるだけ避けたいらしく、尾根上の藪がさほどひどくない場所では雪の上に足跡はなく、灌木がひどくなって雪の上に復帰していた。傾斜が急なところでは人間のトレースかと思うほどの明瞭な足跡であった。薬師岳山頂まで熊の足跡と一緒にあった。

最後に残雪の尾根を突き上げるとなだらかで広い薬師岳山頂に到着。熊の足跡は真の山頂を僅かに東に巻いて南に続いていた。三角点は雪の下。山頂標識は見あたらない。展望良好で南には堂津岳と思われるなだらかな稜線が見えているが遙かに遠い。その右手には後立山。写真判定で槍穂も見えていたことが判明。少し下って風の当たらない場所で休憩。この先もしばし雪が利用できそうだ。

1700m峰からの下りで雪が続かず僅かに笹藪を突破したが、1680m峰まではほぼ雪の上を歩けた。ただし、灌木が出た尾根上にはそれなりの頻度で目印が付いており、高さからして無雪期に付けられたものに違いない。踏跡があるのかこの時点では分からなかったが、無雪期でも登れる程度の藪であることだけは間違いなさそうだ。1680m峰は東側を巻いたが次の1690m峰はてっぺんを通過、峠までの下りの尾根を見下ろしたが雪棚は崩壊してしまい尾根上を歩くしかなさそうだ。尾根に取り付いてみるとそこそこ明瞭な踏跡出現。灌木がはみ出ているが全くの藪よりずっと歩きやすくて助かった。

乙見山峠に到着すると小さなお地蔵様がお出迎え。西側から明瞭な道が上がっていた。トンネルは目と鼻の先で道が無くても簡単に上がれそうだったが、道があった方が楽ができる。これから向かう松尾山方向にも踏跡が伸びていて、しばしの間は雪がないのでそれに従う。尾根直上より西側の方が藪が薄いようだ。雪が出てきてからはそちらに乗り移る。

1654m峰で尾根は右に曲がると再び雪棚は消失し、尾根上の踏跡を進み、雪棚が現れるとそちらに乗り移る。いくら踏跡があるといっても整備された道ではなく、残雪の上を歩く方がずっと楽だった。最後に突き上げて松尾山山頂到着。意外にも尾根直上の雪は消えて三角点が出ていた。ここまで踏跡があったので山頂標識があるかと思ったら皆無。目印も見あたらない。松尾山は西に飛び出したピークなので、眼下には小谷温泉

の建物が見えた。まだ小谷への林道は雪に埋もれて通行できないが。南から東の展望は良く、これから進む尾根の様子もよく見える。ここから見えるのは北向きの尾根なのでずっと雪が付いているように見えるが、裏側の南はどうだろうか。ま、それは下りになるので多少の藪は許容範囲だが。ここでも少々休憩。ここから柳原岳まではアップダウンがあり、柳原岳から堂津岳までは雪に覆われたなだらかな稜線が続いているのが見える。これを見れば柳原岳まで登るのなら堂津岳に足を伸ばしたくなる。

松尾山を出発。雪は徐々に緩んできてはいるが、まだ堅い場所もあり下りは要注意だ。傾斜がある場所で滑って何度かコケた。1664m峰の下りは南西向きの尾根から南東に尾根が分岐する場所はわかりにくく、今回は快晴で視界に問題が無かったのが簡単だったが、ガスの中で正しい尾根に乗るのは難易度が高いだろう。もちろん、逆コースでここを登りに使うなら問題ないが。この下りでまたコケて右肘を強打、擦り剥けはしなかったが打撲したようで右肘を曲げると痛かった(翌日まで痛みが残った)。

今度は尾根東側の雪棚がずっと続き、尾根上の藪に突入することはない。尾根上には目印は見られず踏跡があるのか不明。1610m峰、1630m峰を越えてもったいないことに1570m鞍部に下り、残雪が続く1710m峰へと登り返す。ここは階段状の雪庇が続く、高さは数mだが傾斜がきつい部分が断続的に表れる。北向きの尾根で雪が硬く、キックステップで思いっきりつま先をけり込んでよじ登る場面も。雪庇が発達した1710m峰から1700m等高線のなだらかな尾根を進む。

そのまま連続する雪を伝わって1680m鞍部に下り、柳原岳への最後の登りにかかる。しかし山頂直下で雪棚が割れて一時藪に待避するしかなさそう。使えるところまで雪を伝い、灌木と笹の尾根に取り付いて上を目指す。残念ながら踏跡皆無、どうやらこの界隈は踏跡はないようだ。尾根直上より西側の方が笹、灌木が薄いのでそちらを選ぶ。ただ、雪から離れてしまうためどこで雪に復帰できるのか見ることができず、思ったよりも上部で残雪に復帰した。そこから山頂までは快適な雪稜が続いた。

柳原岳山頂は2つのピークで構成され、地形図の標高点は県境から新潟側に飛び出した南峰に付けられている。北峰、南峰とも目視ではほぼ同じ高さで両者とも山頂標識や目印はなかった。北峰は一面の残雪、南峰は藪が出ていた。ここでも休憩。あと1時間くらいで堂津岳に到達できそうなので足を伸ばすことに決定。しかし、帰りの長い林道歩きを考えると本日の行動時間は12時間を超えるかも。雪がない林道なら歩くのも楽だが、気温が上がって緩んだ雪の上を長距離歩くのは疲れそうだなあ。

さて、堂津岳に向けて出発。ここからはなだらかな雪稜が続く、今回のコースの中でもっとも楽しめる区間だ。標高が上がって植生はシラビソに変わっていた。その密度は薄くどこでも展望を楽しめるのがうれしい。1832m峰の二重山稜は往路は東側を、復路は西側を歩いたが、どちらも労力は変わらない。1850m峰は雪庇が発達してなだら

かなピーク。次の1920m峰へは少しまとまった登りであるが、樹林皆無の大展望の斜面だった。登り切ると堂津岳山頂部の一角だが、ここからしばし同じような高さの地形が続きどこが山頂なのかいまいち分からない。溶けて形が崩れているので人間のものか獣のものか不明だが足跡登場。

ここでまじめに地形図を開けば良かったのだが、常識的には山頂は尾根の合流点だろうと乙妻山と繋がる尾根の分岐ピークまで行って見たが標識等は皆無。地形図を開くとこの尾根分岐より北側に山頂があるではないか。でも、東山方面の展望を見るためにここまで来たのも悪くはなかった。この先には足跡は無く、奥裾花自然園から本日上がってきた登山者は皆無の様。もう時期的に遅いからなあ。

逆戻りして真の山頂へ。しかし地形はなだらかで明らかな最高点の判別は難しくGPSの力を借りた。山頂を示した場所は残雪と地面が出た境界付近で、もしかしたら三角点が出ているかもしれないと探してみたらありました！間違いなく堂津岳山頂だ。残雪期の藪山としてはそこそこ有名どころで山頂標識くらいあると勝手に考えていたが全くなし。目印すらない。人工物は三角点のみ。立木は無く360度の大展望。ここまで来ると火打よりも高妻、乙妻の方が近く、笹ヶ峰は遙かに遠く見えている。あそこまで歩かなければ・・・。体力回復のためザックの上にひっくり返って休憩。日差しが暖かった。

下山は柳原岳までは往路を戻り、山頂で地形図を開いて下山路を検討。できるだけ無駄な距離を省きたい。柳原岳北峰から北東に延びる尾根も考えたが、林道歩きがさらに長くなることもあってパス、最終的には1710m峰→1680m峰→1752m肩と進んで東尾根を下ることにした。問題は雪が残っているかどうかであるが、柳原岳から見る地藏岳西斜面は一面の残雪であり、これから下るのは東向きの斜面なのでもっと雪が残っているはず。雪が無ければ適当に谷筋を下ってもいいだろう。

1710m峰は1680m鞍部から東側を巻いてしまい、1660m鞍部に出る。1680m峰の登りでは僅かに藪が出た箇所があるが、ほぼ残雪が利用できた。ここまで来るとシラビソ樹林から明るいブナ林に変わる。ピークを越えて1572m肩にかけての尾根が目に入るが、ここもまだ雪が乗っているようで一安心。ブナ樹林の中の回廊のような雪棚を進んで1572m肩に到着。ここで北に延びる尾根に乗るか東向きの尾根にするか考えたが、北尾根はほぼ無雪で藪が露出しているため東尾根に決定。しかしその東尾根も尾根直上は雪が落ちてしまっていて灌木藪が出ていた。それほど密度ではないので下りでは大きな問題ではないが、藪が埋もれた雪の上と比較すれば邪魔である。面倒なのでまだ雪が付いた北斜面を下ってしまうことにする。下部の緩斜面帯は確実に雪が残っているだろうから、上部に雪が付いていれば藪漕ぎ無し。見える範囲の斜面は雪が付いているので大丈夫だ。

出だしの傾斜はきついで、少し傾斜が緩んだ個所から斜面を下り始める。気温が上がって雪が緩んでいるので急斜面でもアイゼン不要で、靴底を半分滑らせながら快速で下るのは気持ちいい。振り返ると結構な傾斜で、これを登るのは苦勞しそうだ。小さな谷底に出るとブロック雪崩の痕跡。自動車ほどもあるでかい雪の塊が滑り落ちていた。さすがにこれはビビる光景で、周囲に中止ながら早足で通過。傾斜が緩めば安全地帯だ。すると今度は熊の足跡。今日は熊の足跡を良く見るなあ。

一面の残雪で地面が見えない平坦地に降り立ち、北東に向けて適当に歩く。どこかで林道を横断するはずであるが、この積雪だと道が分かるだろうか。地形図だと河岸段丘と思われる崖マークより上部に林道があり、谷を越えてから河岸段丘境界に移り、小尾根を越えて西に向きを変えている。とりあえず平坦地内は河岸段丘上を進んで崖にぶち当たったが、横断したはずの林道には気付かなかった。崖下の平坦地に林道が無いか降りて確認したが無し。崖に沿って北上し、顕著な谷が現れるとその向こうに林道発見。1330m等高線と林道が交差する付近だ。谷はまだ雪に埋もれて簡単に渡ることができ林道に乗る。あとは延々と林道歩きだ。2時間はかかるかなあ。予想通り林道は雪に埋もれて疲れそうだ。もう午後遅い時間だがまだ気温は高く雪は柔らかい。

少し林道を巡るとスノーモービル痕登場。スノーモービルだったら除雪終点まで30分もかからないかな。既に堂津岳を出発して2時間が経過し、小谷側へ抜ける林道との合流地点で最後の休憩。まだ先は長い。林道の端だけでも雪が消えた区間は足への負担が軽くスピードアップが可能だったが、全面が積雪に覆われた場所ではスローダウン。これだけの雪が解け切るにはまだ2,3週間かかるのではなからうか。赤尾岳南側のみきれいに雪が消えていたが、東側に回るとたっぷりの残雪。杉野沢橋手前でエンジン音が聞こえたと思ったら背後から2台のスノーモービルがやってきた。この辺の雪面は凸凹があって大きくバウンドし走りにくそうだが、私の足よりは圧倒的に速い。あ～あ、乗せてくれたらなあ。橋を渡って少し行ったところで降って湧いたように人間の足跡が登場。まだ新しく今朝の足跡ではなさそうだ。後ろで鈴の音が聞こえたような気がして振り返ると真っ黒に日焼けした男性が私と同じ方向に歩いているではないか(実際は鈴の音ではなかった)。私は鈴を鳴らしつつ携帯音楽プレーヤーで音楽を聴きつつ歩いていたので小さな音に気付きにくいだが、これには驚いた。この後は男性とずっと話をしながら林道歩き。釣りに来たそうで川虫はたくさんいるのに魚はやせ気味とのこと。水温がまだ低くて餌の食いが悪いのだろうか。例年の今頃は杉野沢橋まで入れることが多く、今年は残雪が多いとのこと。私のにとってはラッキーなことだ。人と話しながら歩くことは減多に無く(というか、私の他に人がいない山ばかりだから)、30分の林道歩きは退屈も疲勞も感じないまま車に到着できた。釣り人は仲間1名が先に車に持っていて、長野ナンバーの軽トラで先に出発した。私の方はあまりにも腹が減ったのでお湯を沸かしてカップ面を食べてから出発。笹ヶ峰駐車場には10台近くの車が止まっていた。